平成２６年度　前期授業改善の結果及び後期授業改善の取組について

１　「前期の成果指標」の結果　※極力、数値で示すこと

（1）2，3，6年においては区平均正答率、全国平均正答率ともに上回る観点が多い。２年は９観点中５観点、３年は９観点中６観点、６年は１７観点中１４観点が上回っている。しかしＣ層が多い４，５年は多くの観点が平均正答率を下回っている。	（2）読む力・書く力について３，４，５，６年を昨年度と比べると、８数値中５数値が昨年度よりアップした。また、全国平均正答率より高い数値は１０数値中５つある。しかし、４年は書く力が全国平均正答率より１８ポイントも低い。
（3）国語の言語についての知識・理解・技能は、５学年中４学年が目標値を上回ることができた。３，６年は区平均正答率、全国平均正答率ともに上回っている。また、下回っている４年も昨年度に比べると、だいぶ目標値に近づいてきている。	（4）家庭学習週間７日間のうち７日間すべて自己目標の時間を達成できた児童は５６％で昨年より増えた。しかし、学年が上がるにつれて自己目標の学習設定時間が各学年のめやすの学習時間に足りない児童も出てきている。

２　後期の授業改善の重点的な取組

（１）　課題（課題と、課題であることを示す学力調査の結果等）

・２，３年は、すべての観点で目標値を上回り、全国平均正答率に近い数値が多い。６年は国語の読む力、理科の観察・実験の技能が目標値を下回っているがそれ以外の観点は目標値、全国平均正答率ともに上回っている。４，５年については、目標値を下回る観点がかなりある。学年により基礎学力の定着に差がある。

・４年の国語は昨年３年の時の数値と比べるとかなり改善されたが、４観点中３観点（話す力・聞く力、書く力、言語についての知識・理解・技能）が、６ポイント以上低い。

・理科において４，５年は、３観点ともすべて目標値より５ポイント以上低い。また６年も観察実験の技能が８ポイントも低い。

（２）　課題解決のための主な取組と成果指標

主な取組

１　学級経営を通してしっかり話を聞く姿、集中して学習する姿を身に付ける。

２　中川学習スタンダードを定着させ、基礎基本の定着を図る。

　①　ドリルやプリントを使って丁寧な文字で既習漢字が書けるように練習を繰り返し行う。

　②　少人数指導や放課後学習を生かして個別指導を充実させ、学習が苦手な児童の基礎的な既習学習の習得を図る（東京ベーシックドリル活用）。

３　理科・社会においては、観察実験を通して生活体験や既習学習から自分の考えを述べることができるようにする。また、観察実験の予想、用具の扱い方、実験記録、結果、まとめ等のノート指導をする。

４　家庭学習週間の取り組みによる家庭学習の定着化及び５，６年生の自学学習への移行と保護者の家庭学習支援への啓発、年間２回の読書月間を設定し、読書の習慣を育てて想像力や語彙力を豊かにし国語の力を伸ばす。

成果指標

・４，５，６年の理科についてはどの学年も３観点とも５ポイントアップを目指す。

・４年については、すべての教科で３ポイントアップを目指す。

・どの学年も国語算数の観点で３ポイントアップを目指す。

1　平成 25 年度【前期】授業改善の取組

（１）学力Ｄ層の平均正答率を対目標値の７０％以上にするための取組み			
目標	・基礎的、基本的な知識、技能の確実な定着を図る ・中川スタンダードにより学び方を確立させ、意欲的な学習態度を身につける。	方策	・既習漢字や算数練習問題の反復練習に取り組む。 ・家庭学習の定着化を図る。 ・通級学級担任と連携して指導する。 ・教材研究を深め、教師の授業力向上を図り、授業の質を高める。また、問題解決的学習を中心とした校内研修会を年６回実施する。
成果指標	・年間３回実施する中川学習状況調査によって、国語算数の基礎学力の習得状況を検証していく。 ・児童アンケート調査で「授業がわかる、楽しい」のポイントアップを図る。	取組指標	・漢字や計算についてはドリルやプリント、小テストを繰り返し行い基礎学力の定着を図る。 ・朝学習、放課後学習、家庭学習では、できるだけ各児童の能力に合わせた学習ができるように教材を準備する。 ・必要に応じて、通級学級で個別指導を行う。
（２）区の共通課題①「読む力・書く力」を育成するための取組み			
目標	・読書活動の充実を図る。 ・全校で音読指導（一人読み、グループ読み等）に取り組む。 ・「書く力」を育成するため、学年毎に高める活動を取り組む（日記、ミニテスト、作文、感想文、講話内容等）。	方策	・読書月間、朝読書、ボランティアによる読み聞かせ、本の整備等により図書室活用度の向上を図る。また、学年毎に名称をつけた読書記録カードを作成して意欲的に取り組ませる。 ・全教科で、「書く」ことを育成するための取り組みをする。 ・国語習熟プリントを活用して表記能力を高める。 ・学校全体で漢字検定受検への意欲を持たせるような漢字学習を取り組む。
成果指標	・年２回の読書月間中、低学年２０冊、中高学年 1000 ページの目標読書量を設定する。 ・漢字検定申込者 35%を目指す。（昨年 33%）	取組指標	・読書月間を年２回、読み聞かせを毎月２回、朝読書を週１回、図書室整備を週２回行う。 ・朝学習、土曜授業日に時間を設定して、国語のプリント学習を取り組む。 ・全校で漢字検定の過去問をプリントで取り組む。
（３）区の共通課題②「言語力・考える力」を育成するための取組み			
目標	・自分の考えをもち、それを伝え、考えを深めることができるようにする。	方策	・朝学習で言語学習や文章題のプリントを行い、考える問題に取り組ませる。 ・作文や感想文を書く機会を増やす。 ・友だちの前でスピーチする機会をもつ。 ・教師は、１単位時間の中に習得と活用（考える時間）を入れて授業を展開する。 ・校内研究授業、模擬授業ですべての教員が授業研究実践を行う。

成果指標	・調べたことやまとめたこと、自分の考えを発表する機会を設定し、児童の変容を確認する。	取組指標	・体験活動や行事の後にはできるだけ作文や感想文を書かせ、必ず指導を入れる。 ・朝の会の１分間スピーチ等、学年に応じた取り組みを工夫する。 ・授業では、ワークシートに書いた考えや話し合った考えを発表する機会を多く設定する。
（４）学校の課題に対する取組み			
目標	・理科や生活科において観察、実験の結果を整理し考察できる児童を育てる。 ・家庭学習を定着させる。	方策	・観察や実験では生活体験や既習学習から自分の考え等を入れてノートやワークシートに必ずまとめる。 ・毎日宿題等、家庭学習を行う習慣化を図る。 ・授業観察を通して、中川学習スタンダードの学習の定着化を図る。
成果指標	・科学的に探求する姿勢や科学的な見方が育っているか、児童の変容を見守る。 ・家庭学習時間は、低学年 15 分、中学年 30 分、高学年 60 分取り組む。	取組指標	・実験の予想、器具の扱い方、実験記録、結果、まとめ等のノート指導をする。 ・ノートやワークシートにまとめたものを掲示する機会をもつ。 ・学年だより等で家庭学習の目標時間を提示し、保護者にも家庭学習への支援を啓発する。

２　墨田区教育委員会「平成 25 年度における主要な教育課題」に対する具体的な取組み

確かな学力の定着と向上	（１）授業改善・授業力の向上	
	方策	・教材研究を徹底し、授業の質の向上を図る。また、校内研究の模擬授業や授業観察を通して全教職員で授業改善に取り組む。 ・３，４年次教員の年１回の授業研究を実施する。
	（２）興味・関心を高める教育活動の展開	
	方策	・ゲストティーチャー、出前授業等で多様な学習活動を展開し、「夢」や「目標」への意識付けをする「学ぶ機会や学ぶ場」を設定する。 ・図書館を活用した調べ学習に取り組む。
	（３）ＩＣＴ化に伴う情報機器を活用した授業の構築	
	方策	・年間３回の授業観察では情報機器を活用した授業を必ず１回行う。また、教員が利用しやすいように予算内でできるだけ多くのＩＣＴ機器の整備を行う。